

あなたは、身近な人を認め、大切にしていますか。

数年前の出来事ですが、50代くらいの男性とその母親が買い物をするのに店員と話していました。私がその横を通り過ぎようとしたとき、「おいっ、早うしいやつ」と大きな声でしたので振り返ると、さうきまで穏やかに話していた男性が母親に向かって怒鳴っていて、母親のほうは申し訳なさそうに小さくなっていました。どうやら、男性は自分が選んだ商品を購入することに、母親が決めかねていることを、腹をたてていたようでした。私は、そんなにきつく言わなくても、やさしく聞いてあげればいいのに」と思ったものの、そのまま通り過ぎてしまいました。

しばらくたったある日、私は家族と仕事や私生活について考えがぶつかり、言い合いになったのですが、その怒りが収まった後にハッとしました。それというのも、学生時代はもとより、社会人になってからも、たびたび家族に対してぞんざいな言動をとっていた自分は、あの男性と同じことをしている、と気づいたからです。友だちや職場の仲

身近な人の人権

間など、社会の中では言葉遣いや相手の気持ちを考えることにできるだけ気を付けるようにしていたつもりが、家庭ではまったくといっていいほど意識できていなかったのです。家庭の中にも口調や言葉による心理的な暴力や、身体的な暴力など、さまざまな人権問題が生じがちです。家族にありのままの自分を認めてもらえなかったり、心無い言動を受けたりすることは、同じことを他人からされるよりも何倍もつらい気持ちがつのります。

家族や大切な人にもそれぞれの考え方や生き方があり、一人ひとりが明日への希望とともに暮らしたいと願っているはずです。自分の価値観だけで判断せず、その人の多様性を認めて、それを態度で示せるようになりたいものです。

*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

問い合わせ

人権啓発広報委員会
☎ 880・6569